

丹波小
学校便り



丹波の流れ



発行日

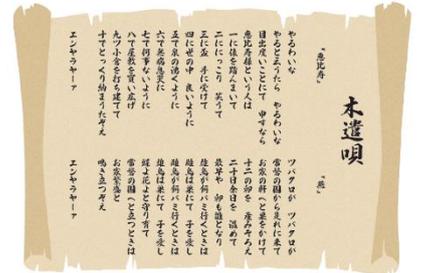
令和6年9月24日

第6号

文責：芹川由美

丹波山村の財産

～伝統を守る～



2学期も始まり1か月が過ぎようとしています。今回は、「丹波山村の財産」についてお話したいと思います。

鹿威しの「カ～ン」という音や、箏や三味線の音を聞いて「和」を感じ、太鼓や篠笛、チャンチキの音を聞いて「お祭り」と感じるのはなぜでしょう。

箏曲「さくら」と、ビートルズの「LET IT BE」の違いは、使用されている楽器や音階の構成音が違うからです。音楽では、ほとんどが西洋音楽で用いられる音階を「ドレミファソラシド」の音で表現されています。しかし、日本の音階は4種類の5音音階（5つの音でできている音階）のできるため、違う感じがします。でも、音色については、私たちの中にあるDNAが関係しているのではないのでしょうか。

平成14年（2002年）の学習指導要領の改訂により、中学校の音楽の授業で和楽器の実技指導が導入されました。その後、伝統的な歌唱法なども入り、歌舞伎や能などの音楽にも触れ、三味線や箏を弾いたり、謡いなども体験したりすることが義務付けられています。

それは、「グローバル化が進む中、海外に留学したり、旅行したりする日本人は多くなったものの、自分の国の伝統について知らない、語れない日本人が多い」ということが課題といわれ、我が国の音楽に触れる機会を多くし、理解することがねらいといわれています。

今回、10月5日（土）に行われる村民体育祭で「木遣り唄」「ささら獅子舞」を全校児童で披露します。

木遣り唄は、日本の民謡であり、仕事唄です。木遣りは、昔の火消し（消防）の仕事をしていた人たちの掛け声とされています。現在は、祝い唄の部分も担っています。

2年前に行われた東京オリンピックでも、江戸木遣り唄は歌われ、世界各国の人たちに紹介されました。そのくらい有名なものですし、我が国の貴重な財産です。



自分たちが生活している地域にある伝統に目を向け、それを継承していく心を育むことも学校の大事な役割であるにとらえています。また、子供たちが様々な時代の様々な地域のことを知ることは、選択肢を広げることとなり比較する対象も増えます。

まずは、地域に根差した音楽を知ることから始めることが第一だと思いました。

全校音楽の時間のはじめ、♪やるわ～いな～♪と唄ったら♪よ～いよい♪と子供たちが返してくれました。その声を聴いた瞬間、私は鳥肌が立ちました。誰かが教えたわけでもないのに、なぜ、子供たちは歌えたのでしょうか。

子供たちにとって「木遣り唄」が生活に根付いている『身近な音楽』であり、「お松曳き」が自分たちの住んでいる地域の大切な伝統であること、松を曳いているひとたちの姿、掛け声などに魅力を感じているからだとは思いました。この1時間の授業ではなんとなく歌っただけでしたが、その後、廊下を通りながら子供たちは歌っていたり、家で練習したりしたのだと思います。次の週にはこぶしまでまわして歌えるようになりました。

木遣り唄以外にも、丹波山村には多くの貴重な財産があり、その1つが「ささら獅子舞」。3年生以上は、講師の酒井さんや嶋崎さんに教えていただく中毎回少しずつ上達していってます。



講師の 嶋崎竜馬さん

5月の学習会で保存会の会長である青柳和樹さんから課題を投げかけられたことから始まった「ささら獅子舞」。

講師のお2人が真剣にご指導して下さいます。その思いが子供たちに伝わるのでしょうか。子供たちも「獅子をやりたい」「白刃をしたい」と、とても意欲的です。



講師の 酒井隆幸さん

舞で参加できない1・2年生は、鍵盤ハーモニカで「道中」を演奏します。自分たちのできる範囲の中で、精一杯、「ささら獅子舞」に取り組んでいます。

ある新聞記事に「伝統を守るとかよくいうけれど、私たちは、伝統に守られているんだよ。」と書かれているものを目にしました。

子供たちは純粹です。ですから、「よいもの」や「美しいもの」には心を動かされ、真剣になります。「子供たちにとってよいもの（美しいもの）」それが丹波山村に伝わる「お松曳き」や「ささら獅子舞」なのだと思います。

このように丹波山村は、保存会の方々や地域の皆さんが村に伝わる大切な伝統文化を繋げてくれていることが子供たちに大きな影響を与えており、子供たちを守ってくれています。

子供たちが頑張っています。どうぞ村民体育祭をお楽しみにおいでください。

低学年は、令和のヒット曲にあわせてダンスを踊ります。汗だくになって練習しています。

「ささら獅子舞」とはまた違うアップテンポでリズムカルな舞（ダンス）です。5人の息もピッタリ！

「REIWA TABAYAMA CHILDREN 2024」

どうぞご期待ください。



1・2年生のダンス練習の様子

丹波川清掃をしました

本校は、緑の少年少女隊に所属しており、丹波川清掃や花いっぱい活動などを行っています。17日（火）に丹波川清掃を行いました。きれいな丹波川。それは、日頃からみんなで丹波川をきれいに使っているからです。だから観光客もきれいに使うのでしょう。でも、みんなで探してみるとみつけるものですね。1人の目ではきれいに感じ見つけられないものでも、大勢で見つけようとする、見つけられることに改めて感じました。



引き渡し訓練 実施

10日（火）避難訓練と引き渡し訓練を行いました。今回は、「大地震が起き、電気もつかない、放送機器も使えないという設定で、保護者の方に引き渡し、徒歩下校をする」という2段階の訓練を実施しました。夏休み中に大きな地震がありました。南海トラフの注意報も出て、日本中が不安な夏休みを過ごしました。

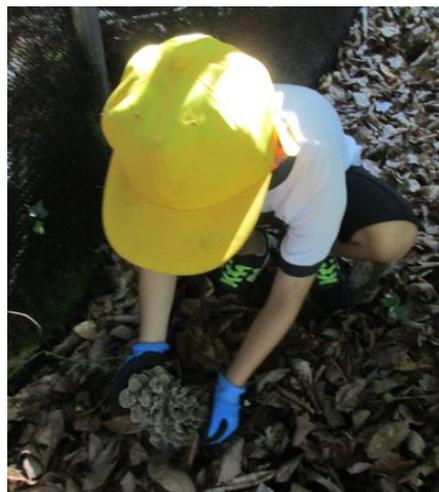
いつ、どこで起こるか分からないのが天災です。いざという時に、安心安全メールが送れない、電話が通じないという時にどのように保護者の方に引き渡すのかを実際に訓練し考える機会としました。

参加した保護者の方からは、「大きな地震が来たら信号もつかない、電線が切れているかもしれない、古い家が崩れるかもしれない。いろいろなルートを家族で話し合おうと思った。」という感想をいただきました。



マイタケが出始めました

5月に植え付けた『舞茸の原木』から舞茸が！丹波山村の名産である「原木舞茸」。きれいですね。香りもよく肉厚で、とてもおいしいです。酒井さん（丹波山倶楽部）のご指導をいただき、活動をしています。このような舞茸になるまでには、たくさんの人の手がかかっています。そのような学習会をしたあとに植え付けを行いました。



第1号は、1年生の嶋崎 廉さんが収穫して家に持ち帰りました。

CSの活動が2学期はたくさん動き出します。来月は、枝豆の収穫を予定しています。お楽しみに。

←廉さんが大切に舞茸を収穫している様子

職員紹介

その4



5年担任 小俣 深和

丹波山村に来る前は、自然の家（里）に勤めたり、日本一周の旅に出たりと不思議な経歴の私です。自然あふれるこの村で、これまでの自分の経験を生かしながら、子供たちと沢山の学びを得ていきたいと思ひます。改めまして、よろしくお願ひいたします。



養護教諭 前嶋 友菜

お世話になっております。丹波山村に来てから早半年。元気で、個性あふれる児童たちと、自然豊かな丹波山村で過ごせること、とても嬉しく思っております。これからも児童や丹波山村の素敵なところをたくさん発見していきたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。